

血管肉腫診療の現況

(文責 皮膚科 松村由美)

今回は、血管肉腫という稀な皮膚悪性腫瘍について述べます。リンパ管が悪性化する
ときや血管かリンパ管由来か分からないときもありますので、まとめて脈管肉腫と呼ぶ
こともあります。頭部での発症が全体の9割を占めます。頭部以外では、乳がん手術後
のリンパ浮腫に続発して上肢に出現したり、放射線治療部位に出現したりすることがあ
ります。

症状としては、内出血のように赤紫の斑としてみえることや赤く盛り上がる結節や出
血を伴う結節として認められることもあります。一般に前者のような斑状病変は比較的
進行が遅く後者のような結節性病変は進行が早いという傾向があります。

頭部に出現する場合には、患者さんのお話では、「机の角の頭をぶつけたら、出血し
た。その後何度もかさぶたになってはまた出血する。」「頭をぶつけたあと内出血が続く」
「パーマを当てたらかぶれた。その後赤くなり治らない」など腫瘍細胞発生のきっかけ
と思われる出来事が先行しています。腫瘍発症機序の一部に外傷や外的刺激が加わって
いる可能性があります。頭部では、ときに多中心性に頭皮全体に病変部が非連続性に散
在することがあります。

好発年齢は60歳以上です。中年以下の発症はほとんどありませんので、免疫機能の
低下が発症機序に関連する可能性が高いと思われます。そのため、血管肉腫の治療の一
環としてIL-2を用いた「免疫療法」があり、一定の効果を有しています。他に治療法
として、手術、放射線治療、抗がん剤治療があげられますが、いずれも単独では難しく
集学的治療を行います。予後は不良であり胸膜、腹膜への転移が早晚生じます。当院で
はこの10年間に10数例の経験があります。最近、治療成績が良くなりつつあり発症
から1年以上の生存例も増加しつつあります。